子供達の未来のために～子育て･しつけの意識改革講座

不登校、引きこもり、家庭内暴力、学級崩壊、いじめ、虐待････何が原因なんでしょうか？
自立できていない、甘え、悪いのは全て他者、自分のことを誰も理解してくれない、自分とは合わないという考え方が根底にあるようです。では、何故そうなってしまうのか？そうならない為には何をどうしたらいいのでしょうか？

子育て･しつけに関する教科書、マニュアルを相当数ひっくり返しました。･･･『なるほど!! 』『それは無理でしょ』『そんな精神的ゆとりも時間もあるわけ無いだろ!! 』等々様々。中には全く真逆のアドバイスもあり、どれを信じていいのか分からなくなってしまうようなこともありました。

のびのび育てましょう ⇔ 好き勝手にやらせる　　完璧なしつけ ⇔ 親の目を常に気にする指示待ちロボット

これは、子育ての両極端な例ですが、子供への愛情、子供の将来を考えての最良の子育て、しつけをしなければという思いは同じだと思います。
子育て･しつけは人生の中で最も重大で難しい任務？の一つなのに見よう見まねの自己流だったり、まじめにマニュアルどうりにやろうとして上手く出来ず自分を責めてイライラしたり落ち込んだりとほとんどの方が経験されていると思います。

どんな子に育ってほしいですか？･････とにかく明るく元気で･･･それに出来れば誠実でまじめで責任感が強く思いやりがあり誰からも愛され頼りにされる子供。そして行動力とリーダーシップがあり常に周りに気配りをし、頭が良くて有名大学に入り、成功を手にし、幸せな人生を送って欲しいと言ったところでしょうか？ちょっと欲張りですが、そう期待するのが、期待してしまうのが親のようです。でも、その過度な期待や自分の果たせなかった夢を子供で達成しようというエゴが様々な問題の根底に有るケースも少なくないのです。

このように様々な問題の原因を探っていくと、親の本能、愛情がコントロールを失い、過剰になりすぎるケースが大半の様です。子離れが出来ない。自分が何とかしなければという焦りと孤独感。親自身の経験不足、メンタルタフネスの弱体、自分に自信がないことから来る不安････等々から反射的な行動をとってしまうのです。昔はおじいちゃんおばあちゃんも子育てに参加してました。むしろ、こっちがメインだったかもしれません。時間的精神的なゆとりがあったのです。

これから大人になってゆく子ども達を待っている世界は、いままでの常識が通じない、グローバル化とITを中心にした各種技術の進歩によって変化し続ける世界です。そんな社会や世界で必要なスキルとはどういったものでしょうか？
人生で襲いかかってくる色々なストレスや困難をはじき返す心の強さと考える力だと考えます。これは多くの挑戦と失敗そして人を傷付け傷付けられ、嫌な思いもいっぱい経験しなければ、身につけようが無い能力だと思います。困難な状況にどう対処するのか？現状を分析し、対策を考え、行動する力が必要なのです。

これから具体的な子育て・しつけについて話を進めて行きます。
ミルクを与えたり、オムツを替えたり、寝かしつけたり、何も出来ないから親が全てをやってあげます。ありったけの愛情で常に笑顔で話しかけながら、べたべたのスキンシップで・・・。是非そうしてください。とても大切な事です。しかし、その内、寝返りやハイハイが出来るようになると危ないからと言う母性本能から？そしてもう少し大きくなって、自分でしたい“やりたがり”の時期になっても親が先回りしてやってしまうのです。やってあげたいから？時間が無いから？後片付けが大変だから？気持ちは分かりますが、ここから間違いがスタートしているのです。

4歳、5歳、自分で出来ることはやらせてください。出来るように見守り、フォローしてください。そのためにつかまり立ちの時期くらいから親のそうした意識が必要なのです。相当なことが出来るのに、親が勝手に愛情と勘違いしてその機会を奪い、自分で出来たという喜びや達成感を知らないまま親に依存する傾向が強くなってしまうのです。
この時期、子供は自分で、多分、本能的に自立・社会へ出る準備を既に始めているのです。これは危ない、これは人に怪我をさせてしまう、友達と楽しく遊ぶ為には、自分の行動や感情を抑える必要があること。他の子の表情から気持ちを察することも、自分のおもちゃを貸してあげたり、他の子たちの遊びの輪にどうやって加わるのかも。これから話を進める『生きる力』の基板となるものなのです。

自分で考え、やってみる、失敗する、何故かを考える、違うやり方をやってみる・・・・そうです。考えることと、やってみること、体験が全てなのです。それなのに、親が口を出す、手を出す。昨日まで出来なかったことが出来るようになる。昨日まで知らなかったことを今日、知ってる。それが楽しいのです。満足感・達成感があるのです。学校に上がる前に、“やりたがり”“知りたがり”の芽を摘んではいけないのです。

知る喜びが、学校、授業、勉強と言う枠の中で、苦痛になり、いやいや強制されるものになってしまったのです。10個のあめ玉を5人で分けると一人何個？算数ではなくクイズとして子供たちが取り組んでくれる方法がきっとあるはずです。

人は誰でも自分の子育て・しつけが上手くいっているのか不安になります。保育園や幼稚園、学校の先生に聞いてみるのもいいでしょう。アドバイスを貰うのもいいでしょう。でも一番いいのは、子供の日常を観察してみてください。

・よく笑う
・元気に走り回る
・よく話す
・よく質問をしてくる
・よく甘える
・毎日が楽しそう

これが、小学校に入っても2年、3年、4年と続いていれば、100点だと思います。

とにかく、すべてにおいて、幼児期から小学校低学年の親のかかわり方次第でその子の未来が大きく変わるといっても良いほど大切な時期になります。思春期や親離れする時期まで(いやでも訪れます) 親と一緒でうれしい、楽しいという時間を作る努力をしてください。遊園地に行く必要はありません。スーパーの野菜売り場で、野菜の名前当てゲームや肉売り場では牛肉と豚肉の違いは？鶏肉はどれ？このガムを3個買ったら幾ら？アイスクリームが冷凍庫で凍らせてあるのは理由は分かるよね？じゃ、なんでこの肉や餃子、凍らせてあるの？この商品半額ってなってるけど幾らになるかな？じゃあ、30%OFFのこの商品は？勉強ではない知りたいことが無限にあります。子供の年齢に合わせて幾らでもクイズが作れます。日常を親子の楽しい時間に変えてくれます。

知りたがり、やりたがりの目を摘まないという話をしました。次は、もう一歩踏み込んで、自分のことは自分でやらせるということです。

玄関で脱いだ靴を揃える。遊んだ後の片付け、着替え、洗濯が終わってたたんである自分の服を自分でタンスにしまう。汚れた体操服は自分で洗濯機に入れる。朝は自分で目覚まし時計で起きる。時間割や翌日の行事予定を前の日に確認し準備を済ませる。他にも自分で出来ることはたくさん有ります。何歳から？それは個人差があるとは思いますが、早いに越したことはありません。初めは、少しは手伝ってもいいでしょう。でも前もって宣言してください。『来週からは、ひとりで頑張ってね』と。

寝坊すれば学校に遅刻します。授業中の教室にきまずい気持ちで入っていかなければなりません。あるいは、朝ごはんを食べる時間がなく空腹な午前中を過ごさねばなりません。洗濯を忘れれば、翌日の体育は汚れた、汗臭い体操服で授業を受けなければなりません。ここから原因と結果、しなければならない事をしなかったら何が待ち受けているのかを身をもって経験するのです。

朝、親が起こしてくれる家庭ではどうでしょう。1回で起きて来ますか？何回も起こしたのに、返事だけで結局、15分も遅い時間になり、『何で起こしてくれなかったの!!』『何回も起こしたでしょう』といういつもの喧嘩が始まります。そして、お母さんのせいで遅刻する羽目になってしまったと考えるのです。悪いのは他の誰かのせいという考え方は非常に楽です。自分は何も悪くないのですから。責任転嫁、非常に危険な考え方です。様々な問題を事前に防止したり、いやな思いをしなくて済むためのプランやアクションは生きていく上で絶対必要です。問題が発生する前に手を打てたはずの事象に何もしない、できない大人になってしまうのです。自分のせいだと認識できれば、そして、自分で結果を変えられるということを体験すればミスの少ない出来る人になれるのです。

どうですか？このタイミングでご自分の、ご夫婦の子育てについて、現状を分析し、正しい部分と、間違えている部分とを整理し、今後の家族の時間をもっと楽しい、有意義な思い出に残るような時間にしていきませんか？愛されている、大切に思われているという安らぎや安心感から信頼関係や絆が出来てくるのです。急に親と口をきかなくなる。部屋にこもることもありません。原因があるから結果があるのです。

知識情報は、これから幾らでも吸収できます。でもそれは『生きる力』のほんの一部分であり、最も大切な部分、自主性や興味、モラル、思いやり、感謝、努力、我慢、夢を持つ、諦めない気持ち等々は、この時期の家族の時間で育まれるものだと確信しております。

私たち大人は、どんな未来を子供達に残そうとしているのでしょうか？せめて、頑張れば報われる社会・システムでなければ夢をもてない未来では、子供たちは疲弊してしまいます。まじめに勉強して50社100社の就職面接をこなして、1社も内定がもらえない厳しい就職戦線、政治が悪い？社会が悪い？時代時代の運・不運と割り切るしかないのでしょうか？物質的な経済的な豊かさを幸せと勘違いして追い続けてきた社会やシステムのボロが出始めたようにも、様々な不都合を先送りにしてきた付けが回ってきたようにも感じられます。

社会・システムを変えるのは無理かもしれませんが、子供の能力は変えられます、伸ばせます。そしてもう一つ大切なことはどんな社会にも適応できる『生きる力』を与えられるのは親しかいないという事です。
私たち大人のこれからの行動が、子供達の未来を明るくするのか、険しいものにするのか、重要な局面に来ていることは確かだと思います。

自己紹介

1959年生まれ、佐土原町出身、宮崎大学工学部から半導体メーカに就職、22年のエンジニア生活から2003年、(有)アイアンドエスを設立、技術コンサルタントとして十数社の企業にお邪魔し、これまで約450名のエンジニアと実課題解決や人材育成を実施。2013年、(株)オフィスナガトモ入社。これまでの経験から見えてきた本当の、必要な能力とは何か？を一人でも多くの子供たちに伝えるべきと考え始め、『明日へ～子供達の未来のために』という講演や授業を企画・展開中。

http://office-nagatomo.co.jp/

株式会社オフィスナガトモ

企画室　太田　泰晴

info@office-nagatomo.co.jp

〒889-1406　宮崎県児湯郡新富町大字新田5744番地1

TEL:0983-33-1105　FAX:0983-33-0393